

【灯】 「アウェーにも愛を」
<2023/7/21 大分合同新聞掲載>

気が付けば地元以外で暮らす期間の方が長くなり、その副作用の一つが、ひいきチームを本拠地で応援できないことです。東京生まれの娘を首都圏の試合に連れ出してはアウェー側に座らせて、妻からは白い目で見られています。

地元客で埋まるホーム側とは違って、アウェー（ビジター）の応援席にはさまざまな人がいます。最も多いのは、チームと共に遠征してきた人。チーム愛を感じます。次に、地元を離れて暮らす人が、街に来た地元チームを応援する形態。郷土愛を感じます。第三勢力は、それぞれの事情で地元以外のチームを好きになった人。私の同僚のお嬢さまは、大分出身東京在住なのに、オリ姫＝オリックス・バファローズファンです。

とはいえ、アウェーはやっぱり寂しいのです。仲間も少ないし、街の勝手も分からない。お金と労力をかけてわざわざ来たのに、チームが負けてしまったら、徒労感も倍増です。

そんなアウェー席をホーム側から見れば、試合中こそライバルですが、視点を変えれば、遠方からの大事なお客さまです。地元が勝った時こそ、アウェー側に良い思いをしてもらえよう努力する。それによって街の印象が上がれば、今後も観戦に来てもらえる。SNSで大分の魅力を発信してもらえる。

あれっ？ 確か前回も同じようなオチだった気が。オリ姫じゃなくしておりひめジャパンの話でしたが…。(日本銀行大分支店長)